

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0222 NO101

校長 伊波喜一

げんのうを 慣れぬ手つきで 打ちつける 楽しからんや 物を作るは
東京土建中野支部の皆様の多大なるご尽力で、学級に置いて使う
棚を6年生が卒業制作として作った。設計から採寸・切断・釘打ち・
木地のやすりかけ・塗装までを、大工さん18名が手取り足取りし
つつ、ご指導いただいた。物を作る喜びは、何物にも代えがたい。
釘打ち一つとっても、熟練の技に至るまでには試行錯誤を繰り返す。
ましてや、熟練者でない子ども達にとっては、なおさらのことであ
ったろう。釘がまっすぐに打ち込めず、歪む・曲がる。そこで、ベ
テランの打ち方を見て学び直していた。手塚治虫のデッサンは
(例えば人体の筋肉図など)、その精妙さに舌を巻く。その手塚が
大事にしたルーチンの一つに、○を描く事がある。デッサンと並行
しながら、同じ形・同じ大きさの○を200回以上描き、ペン先の
感覚を研ぎ澄ませた。今日の匠の技を見ても分かるように、熟練者
になるには基本を徹底する以外にない。つまり、熟練者になればな
るほど、基本を大切にするとっても過言ではない。人は本物と
出会うことで審美眼が鍛えられる。今日の出会いを大切にしたい。